

2025年度宮城学院女子大学編入学試験 学芸学部人間文化学科 小論文

I、IIのうち、どちらか一方を選ぶこと。なお、Iを選んだ人は解答用紙その1に、IIを選んだ人は解答用紙その2に記入する。

I 次の教員とそのゼミ生の会話を読み、あとの設問に答えなさい。

学生A：先生、両親と物置を整理していたら、私が小学生の時に一緒に暮らしていた曾祖母の日記が出て来ました。

教員：いつ頃のものでしたか。

学生A：昭和ひとけた代のものでした。

学生B：西暦で言うと、1920年代後半から1930代前半？先生合ってますよね。

教員：合っていますよ。日本が大変な時代でした。なかでも東北はとても深刻な事態を迎えていたんですよ。ところで、日記にはどんなことが書いてありましたか。もう読みましたか。

学生A：はい、まだ全部ではないんですけど。

学生B：どんなことが書いてあったの。

学生A：まずびっくりしたのが、学校が休みになって、家の手伝いをしたと書いてありました。

教員：ほお、どんなお手伝いでしたか。

学生A：桑摘みです。

学生B：それって、小学校の時に理科の実験でやったけど、カイコの餌でしょう。

教員：そう、正解。明治以来、養蚕は日本の経済を支えていたんですよ。知っていますか。

学生B：確か、日米なんとか条約とかが関係したと思いますが。

学生A：あ、わかった。主要輸出品になったって習った覚えがある。

教員：そうです。ですが、1920年代末から大変な事態になったんですよ。さらにね、昭和5年、1930年ですね、「豊作貧乏」という事態が発生したんです。さらにさらにね、その翌年、1931年には冷害にも見舞われました。

学生A：「豊作で貧乏」って分からないなあ、どうしてそんなことになるんですか。

学生B：どうしてか、それは宿題、ですか。

教員：じゃあ、そうしましょう。ヒントは、「江戸時代には起こらなかったことであろう、それは税金の収め方による」ですね。ところで、何かほかに面白いと思った記事はありませんでしたか。

学生A：ありました。昭和8（1933）年の日記に、学校で給食が始まったって書かれていました。でも、自分の家は商店だったから、給食をもらえなくて残念だって。

教員：そうですか。それは、給食が始まった目的から当然のことと言えるでしょう。おっぴさん（注1）のお家は裕福だったのではありませんか。

学生A：お正月には新しい下着を着てお年とり（注2）をしたとか書いてありました。でも、おかしいんです。お正月と言いながら2月の時もあつたし。

学生B：それは旧正月だよ。

教員：よく分かっていますね。やはり、それでは給食はもらえませんか。給食も、はじめに話した「東北のとても深刻な事態」と深い関係があります。それでは、どうして、どんな深刻な事態が起きたのか、今話したことをヒントにして、次のゼミの時間に話し合ってみましょう。Aさん、就活が忙しいと思うけれど、Bさん、教員採用試験が近づいているけれど、二人の卒論と関係することですから、頑張ってやってみましょう。

注1 おっぴさん 曾祖父母のこと。

注2 お年とり 新年を迎えること。「数え年」では、新年を迎えると誕生日にかかわらず年齢に1歳を加えたことから、新年を迎えることをこう呼んだ。

問題 会話文中、1920年代後半から1930年代前半に東北地方が陥っていたという「とても深刻な事態」がどうして起こったのか、会話文中の下線部のできごとにもふれながら800字以内で説明しなさい。

Ⅱ 次の新聞記事を読み、あとの設問に答えなさい。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

この部分は著作権の都合上、公表できません。

朝日新聞 2024年06月20日 東京 朝刊 1 外報（図、写真、小見出しは省略。本文に一部加筆。）

問1. スーダンとミャンマーのそれぞれの難民発生の原因と難民の行き先を、まとめて答えなさい。（250字以内）

問2. 下線の「政治的な解決」とはどういうことか。自分の言葉で述べなさい。（難民を生み出している国の国内政治と外交の両方を考慮すること。）（150字以内）

問3. 難民問題の改善、解決に向けて、日本にいる私たちに求められていること、私たちが日本でできることは何か。記事の内容を踏まえ、自分の考えを述べなさい。（400字以内）

ねらい

幕末開港後、世界経済に加わっていった日本の主要輸出品と、江戸時代急速に進んだ日本の農村の特徴である米作への特化を理解し、明治新政府によって行われた地租改正による租税の金納化がもたらした農村への影響が、世界経済との関係も含め、どのように社会問題として現れたかの理解を問う出題。

解答例

明治新政府は欧米諸国に対抗するため、近代化を急速に推し進める必要に迫られていた。それを示すのが富国強兵、殖産興業、文明開化という政策基調であるが、その実現のためには強固な財政基盤の構築が必要であった。そこで行われたのが地租改正である。版籍奉還、廃藩置県により、全国の土地を国家管理の下に置くことができた明治政府は、土地所有者に地券を交付して所有権を確定すると同時に、地券に記された地価に基づき、その3%（後に2.5%）を地租として金納する新税制を制定した。こうして明治政府の財政基盤が作られたのだが、この制度改革により、土地に労働力を投下して収入を得る生活をしていた農民は、江戸時代までの税の現物納から、生産物を売却して地租を金納しなければならないこととなったのである。農村、特に東北地方の農村の主力生産物は米であった。藩政時代、諸藩は藩財政の基盤を農村に置き、三都を中心に消費量の増大する米の商品的価値を重視して米の単作化を促し、増収を図った。また、幕末の開国後、日本からの主要輸出品となっていく生糸の原料となる繭生産（養蚕業）も東北地方の農村で広まっていったのであった。この二つ、すなわち米と繭とが東北地方の農村の主要な収入源となっていくのである。しかし、それは農村が商品経済に依存する、左右されるという結果を生むことになってしまったのである。すなわち、米の豊作は米価の低廉化を招き、それは農家にとっては収入減となってしまった。また、冷害により、米がとれなければ当然、農家の収入は減少する。そこに世界恐慌が追い打ちをかけた。最大の生糸消費国であったアメリカの経済不況により輸出量が激減、農村経済を支えていた繭価も暴落する。こうして東北地方の農家は、主要な現金収入源であった米作と養蚕の両方で苦境に立たされ、「子女の身売り」というような極限の貧困状況に置かれ、苦しむこととなったのである。

Ⅱ

出題のねらい

一般的な新聞記事の読解力や文章を要約する能力を問うとともに、難民問題について、その基本的理解と、グローバル化した世界を生きる市民としての問題意識や思考力を問う。

解答例

(1)

スーダンでは2023年4月に国軍と準軍事組織「即応支援部隊」の戦闘が始まり、国内避難民の数は世界最多の約910万人となった。隣国のチャドにも多くの人が逃れている。そこからさらに、北アフリカから地中海をわたって欧州を目指す人たちもいる。ミャンマーでは、2021年に国軍がクーデターで全権を掌握後、国軍と武装勢力の戦闘が長期化し、人びとが故郷を追われている。そのうち、少数派イスラム教徒ロヒンギヤを含む130万人が国外に逃れている。これらの難民の脱出先としては、隣国のバングラデシュやタイなどがある。(248)

(2)

難民を生み出す国が、難民化しやすい弱者や少数者に配慮した民主的な政治を行ったり、難民の原因となる軍事的な紛争や暴力的な迫害を起こさないようにすることが必要で、国際社会は、その国に組み込みを強く求めるとともに、そのための社会的経済的な支援を行い、難民を生み出さないようにしていくこと。(141)

(3)

採点に際しては、記事の内容を踏まえているか、求められていること、できることの双方が書かれているか、が注意点となる。